

社 協 だ よ り

NO. 60

発行責任者：人来田学区社会福祉協議会 会長 亀卦川 邦男

《人来田学区社協の20年をふりかえって》

人来田学区の町内の皆様には、社会福祉協議会会員としてご協力を賜りありがたく感謝申し上げます。人来田学区社会福祉協議会は、平成12年4月人来田学区町内会連合の発足に伴い6団体（人来田学区町内連合会、人来田学区社会福祉協議会、日本赤十字人来田学区奉仕団、人来田学区衛生団体連合会、人来田学区児童福祉協議会、共同募金会人来田学区募金会）の組織が発足しました。社会福祉協議会は、地域における住民と地域の中にある町内会、民生・児童委員、ボランティア団体が協力して、住民により身近な地域福祉活動を目指す、公共性と自主性を有する民間団体で、少子高齢化の今日、地域福祉に住民とともに取り組まなければならない課題と、20年前の松坂会長が発信しておりました。

発足当時の活動は各町内ごとで、サロン活動より、町内や福祉施設の手伝い等のボランティアとして支援を主体としていました。65歳以上の高齢化率が40%の現在は、介護予防運動、一人暮らし高齢者の方のサロン、子育て中の親子の子育てサロン、地域住民のための相談とおしゃべりの談話室を開催し行政の専門職と話をする場としてきました。高齢化で高齢者が多いはずですが、高齢者のサロンのメンバーが多すぎてどうのこうのという声が聞こえてきません。常に声を出して話をしたり、歌を唄ったり、同時に体を動かすことが、認知症予防になると音楽療法士の吉田先生が話していました。

人来田学区の高齢者65歳以上は2,400人（令和元年10月現在学区内人口6,021人）です。これからこの人来田山の坂道、買い物に行く足がなく、買い物難民の数が増えてきています。また、このところのウィルス感染もあり、外に出たくないし、手伝う人の濃厚接触も気になり動けなくなっているのではないかと思います。

こういう時に近所に住む町内の人、福祉活動者は被害者でもあり、加害者にもなりうる状況です。共助・自助どのように対処すべきか悩むところです。各個人のプライバシーを考えると余計なお世話もできない。

しかし、その前に町内会に係わる方々、各団体の支援者は皆さんボランティアとして動いています。町内の住民皆さんが町内の責任者、会長と名の付く方は、その代表ということかと思います。民生委員・福祉委員、そして町内会の新たな担い手を育てなければ、この人来田学区はどうなるのか心配です。

（裏に続く）

【お 知 ら せ】

新型コロナウイルスの感染拡大が予想されるため、今年度開催予定の5月21日・7月16日の開催を中止することにしました。次回開催を下記通りの開催とします。

『談話室ひととき』 お茶のみとおしゃべりと相談の場 次回開催

開 催 日 令和2年9月17日（水） 午前10時より

開催場所 人来田コミュニティーセンター・ホール

今年度開催予定 9月以降は 11月19日・1月21日・3月18日の第3木曜日です。開催予定変更があった場合は、社協だより等で案内いたします。

人來田学区社会福祉協議会の前会長の岩渕剛夫さんに、発足当時からの資料を基に20年を前ページに載せましたが、これから人來田社協はどのような形で、住民と一緒に福祉活動が続いていくのかを考え直す時期に来ていると思います。それには、人來田学区をまとめるべき連合町内会組織を中心に連携し、これからの町内化のビジョンを住民に示し、そのビジョンに沿って社会福祉協議会・日本赤十字奉仕団・共同募金会・体育振興会が協力して同じ方向に進んでいこうではないでしょうか。これからの人來田を支えるのは、現在働き盛りの20代から60代の方々が表に出て活躍することかと思ひます。

今までの20年の歴史を、将来に向かって歩んでいくためにも、人來田学区内住民が「地域による新たな支え合いネットワーク」でみんなが繋がっている連合町内会をつくろうではありませんか。同じ仙台市内の町内会でも若い方が積極的に参加し、自分たちの住みよいまちづくりを目指しています。現在、就労している方々に人口の40%を占める高齢者が支えられていることを考えれば、これからの町内をつくるために、町内会活動に多いに参加して、高齢者の域に達するまでに創ってみてはいかがでしょうか。人來田学区社協の「談話室ひととき」は、住民の溜り場として、お茶を飲みながら交流を重ね、行政の専門員との相談の場でもあるので、時間のある方はおいでください。平日開催でもあり、児童生徒・就労している方々には、時間が合わないと思われるかもしれませんが、地域の皆様のお話をきいて、そして皆様のご要望に応じていこうと思ひますので、ご協力を宜しくお願い致します。

(活動推進員 及川 和典)

＜散歩道＞

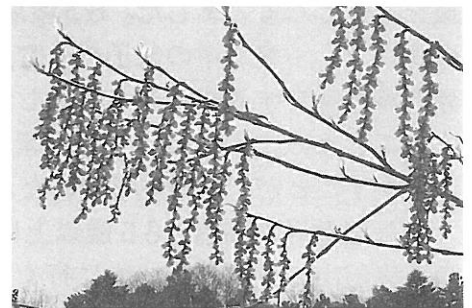
うきうきする春、例年なら花が次々咲き初め、カメラを片手に散歩するのが、私の楽しみです、なんともモヤモヤな毎日。震災の時も心の重たい春でしたが、今年の春は訳がわからない。天候も異常で暖冬でした。桜のソメイヨシノは、仙台で3月末に開花宣言。ここ数年、だんだん早くなっているような気がします。夏はどうなんだろうと心配です。

3月下旬散歩すると、桜が咲き始め、カタクリやショウジョウバカマもいつもより早く咲き出しましたが、でもギブシなどは例年より遅いような気がします。いつもだと5月ごろに咲くツツジなど、4月の中旬から咲き始めています。この号が届く頃には、フジの花が咲いているかな？先日、花を観察しながら散歩していたら、キノコです。「トガリアミガサダケ」今の季節、気にしていないせいか、目に入っ

てこないのですが、一緒に歩いていた友達が見つけてくれました。食べられるらしいが？食べたことはないのです。春キノコで食べたことがあるのは、ハルシメジくらいです。なんと我が家の庭のバラ科の木の根元に出るんです。

ここのところ、コロナウィルスのせいか、太白山登山をする人や下の道を歩く人が増えました。感染に気を付ければ、とても良いところだと思います。家の中ばかりにいたら、筋肉が落ちてしまいます。折角の新緑の季節、家の廻りを一回り、余力のある人は太白山の神社や桜の園まで、散歩してみましょう。

(人來田社協委員 池田 尚子)



キブシ



トガリアミガサダケ

＜編集後記＞

「暑さ寒さも彼岸まで」時がゆるやかに流れる良き時代を満喫していた、先人が現代によみがえったら、さぞビックリすることでしょう。週ごとに最低気温・最高気温が乱高下し、体調管理に気を遣う毎日です。更に全世界規模の疾病が、猛威を振るっています。流行を抑えるには、家にジッとしているのが一番。とは言いますが、流石に3日も家にいるとかなりのストレスが溜まります。高齢者はともかく、小学・中学・高校生そして幼児が限界に来ているのではないのでしょうか。創意工夫で乗り切りましょう。今後も社会福祉協議会に絶大なるご協力をお願いいたします。



(人來田社協委員 伊藤 卓)